

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
[1] 学習指導の充実向上と進路指導の充実	① 指導内容の精選や指導方法の工夫改善により、基礎基本の確実な定着を図る。 ② よく分かる授業を行うことで、学習意欲を高め、確かな学力を育成する。 ③ 学校行事等を精選し、授業時数の確保に努める。 ④ 自らの課題を発見する力をつけ、主体的に取り組み、自ら考え行動し、解決できる資質や能力を育成する。 ⑤ 進路相談を充実し、個々の生徒に応じた支援をするとともに、集団の一員としての社会適応力や職業観を培い、生徒一人一人の進路実現を図る。 ⑥ 学校図書館が生徒および教職員に図書の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与し、生徒の健全な教養を育成する。	評価指標 ① 教職員は様々な工夫をして授業に取り組んでいるかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上とする。	評価指標による達成度	(評定)	
		② 授業に対して満足しているかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上とする。		(所見)	
		③ 授業時数の確保率を83%以上にする。			
		④ 計画的な学習ができているか、意欲を持って授業に取り組んでいるかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が共に80%以上とする。			
		⑤-1 進路検討会を年間3回以上行う。			
		⑤-2 個別面談を各学期1回以上実施する。			
		⑤-3 国公立大学への合格者100名を目指す。			
		⑤-4 商業科において、全商1級3種目以上取得者40%以上、就職内定率100%とする。			
		⑥ 図書室利用活性化の為に、学期に2回、企画展などの活動を行う。			
			活動計画	活動計画の実施状況	
	①-1 「学力向上委員会」を年間2回以上実施し、学力向上の				

ための方策を検討する。

①-2 相互授業参観や授業研究会、職員研修等を年間2回以上実施して授業力の向上を図る。

①-3 電子黒板、生徒用タブレット等 ICT の活用による授業、すなわち GIGA スクール構想を推進する。また、そのための授業参観や研修の機会を設ける。

② 授業評価アンケートを行い、その結果を授業改善につなげる。

③ 学校行事の精選、各学期末考査後の日程、授業実施曜日のバランス等、年間を通じての入念な計画を立て、授業時数確保に努める。

①, ②, ④ 学校評価アンケートを行い、目標が達成できたか評価する。

④ 放課後等に自習を行える環境を整え、主体的な学習活動ができるようにする。

⑤-1 進路指導検討会で模試等を活用し、生徒の状況を分析してその後の進路指導に役立てる。

⑤-2 担任は面談をとおして生徒が適切な進路選択をできるように指導する。

⑤-3 担任と進路課が連携し、適切な進路指導を行う。

⑤-4 資格試験の受験を勧める。また、インターンシップ等体験的な活動を行う。

⑥-1 図書、視聴覚教育の資料、その他学校教育に必要な資料を収集、整理する。

[2] 中高一貫教育の 充実	① 中高教職員のよりに、緊密な連携のもとに、指導方法の工夫改善や教科横断的な学習の充実を図り、6年間の計画的・継続的な指導を行うなか、生徒の個性や能力を伸長させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価			
		①-1 中高一貫教育研究委員会を年間2回以上実施する。		(評定)			
		①-2 中高教職員による相互授業参観や中高合同研修会を年2回以上実施する。		(所見)			
		①-3 複数の科目において中高教職員による授業交流を実施する。					
		①-4 中高合同教科会を各学期1回以上行う。					
		①-5 ESD（持続可能な開発のための教育）活動について連携し、合同の講演会や発表を年1回以上行う。					
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①-1 年2回の中高一貫教育研究委員会までに有効で実施可能な案を検討し、委員会では具体的な検討ができるようにする。また、内進生の6年間成績の推移がわかるようにし、さらなる向上対策を検討する。					
		①-2 中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を年2回以上行う。					
		①-3 数学と英語を中心に中学校の授業の一部に高校教員が入ることで、併設型中高一貫教育のメリットを活かした指導法や指導体制を検討する。					
①-4 各学期初めの職員会議後に中高合同教科会を行う。							
①-5 ESD活動（ユネスコスクール取り組み）を計画的に推進する。							
[3] 人権尊重の意識・態度を育む「心の教育」の推進	① 「徳島県人権教育推進方針」に基づき、豊かな人間性を身につけさせ、	評価指標	評価指標による達成度	総合評価			
		①-1 人権HR学習を年6回（3年生は5回）実施する。		(評定)			

	<p>さまざまな人権問題の解決のため、主体的に取り組む能力・実践力の育成に努める。</p> <p>②学校・家庭・地域社会との連携を深める。</p>	①-2 「富東人権新聞」を年5回発行，アピール放送を年2回実施する。		(所見)			
		①-3 生徒対象の人権教育関連行事を年1回以上実施する。					
		①-4 生徒対象アンケートで「人権問題について意識し，差別をなくすために行動したい」とする回答合計が80%以上になることをめざす。					
		②-1 人権問題研修会を教員対象年3回以上，PTA対象年1回以上実施する。					
		②-2 保護者・教職員対象アンケートで「人権を尊重するための様々な取組が行われている」が80%以上をめざす。					
		活動計画					
		①-1 人権教育ホームルーム活動を充実させ，展開等の工夫をする。					
		①-2 月1回の「富東人権の日」に「富東人権新聞」やアピール放送を使って啓発する。					
		①-3 講演会等の企画の他，ポスター・標語の作品展示を通して啓発する。					
		①-4 卒業時にアンケートを実施し，入学時との意識の変化について考察する。					
		②-1 校内研修会を企画し，教職員の人権意識を高める。					
		②-2 「富東人権新聞」を家庭に持ち帰り，保護者にも読んでもらい，人権意識の高揚を図る等の継続的な啓発を行う。					
		②-2 講演会を企画し，保護者への参加を呼びかける。					
[4]		評価指標	評価指標による達成度	総合評価			
豊かな心を育む生徒指導の推進	①教育の全領域において，あいさつ，マナー等の基本的生活習慣を身につけさせるよう努める。	①-1 年間遅刻回数20回以上の生徒を0人にする。登校日の遅刻者0人の日の割合を20%以上とする。		(評定)			

	<p>る。</p> <p>②いじめや体罰を防止し、速やかに対応する。</p> <p>③行動・学習面で教育的支援が必要な生徒を学校全体で支えていく体制を確立し、特別支援教育を推進する。</p> <p>④全教職員の共通理解を図り、家庭・地域・関係諸機関との連携に努める。</p>	<p>①-2 身だしなみをきちんとできていると自己評価する生徒の割合を 90 %以上にする。</p> <p>② いじめと体罰に関するアンケートを各学期 1 回実施する。</p> <p>③ 校内の支援体制について、生徒・保護者に年 3 回以上周知し、早期の対応につなげる。</p> <p>④ 教職員研修を年間 1 回以上実施する。</p>		(所見)		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 あらゆる場面や領域で共通理解を図り、望ましい生活習慣の育成に努める。多遅刻者には、保護者への連絡を密にする。				
		①-2 服装・頭髪・マナーについて集会や HR での指導を通して自覚を高める。挨拶の励行や清掃活動への自主的な取組を促す。				
		② いじめ問題について集会や HR での指導を通して啓発を行う。				
		③ スクールカウンセリング等、生徒・保護者が相談しやすい環境づくりに取り組む。				
		④ 外部講師による教職員研修を実施し、支援を必要とする生徒の共通理解を図る。				
[5] 特別活動の充実	①部活動や生徒会活動等において、生徒の自主的活動の育成を図るとともに、活力あふれる学校づくりに努める。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
		①-1 生徒会新聞を年間 4 回以上発行し、部活動・生徒会・各種委員会の活動や学校行事を PR する。		(評定)		
		①-2 球技大会のアンケートで満足度を 82 %以上にする。		(所見)		

<p>② ボランティア活動をとおして、人間としてのよりよい生き方・在り方を追求する。</p> <p>③ 教員と生徒、生徒相互の温かい人間関係を育て、生き生きとした、しかも調和のとれた人間性や自主性・社会性等の伸長を図る。</p>	<p>②-1 学校周辺の清掃ボランティアを年2回以上実施する。</p>				
	<p>②-2 地域のボランティア活動を年6回以上実施する。</p>				
	<p>③ 学校評価アンケートで「各種学校行事は適切で楽しいものである」に対し、「おおよそ当てはまる」以上が80%以上になる。</p>				
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>			
	<p>①-1 生徒会活動や各種委員会活動を活発にする。</p>				
	<p>①-2 球技大会はアンケートで種目を決定し、生徒が主体的に運営する。</p>				
	<p>② 地域の防災避難訓練，成人式等のボランティア活動を通して社会貢献の意識を高め，奉仕の精神を育成する。</p>				
	<p>③ 学校行事の精選をはかりつつ，行事がより効果的なものとなるよう改善していく。</p>				
<p>[6] 心身ともに健康・安全をめざす環境教育・安全教育，食育の推進</p>	<p>① 心身の健康管理と正しい食生活等，健康増進の積極的指導を推進する。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	
		<p>①-1 「ほけんだより」を年間7回以上発行する。年間を通して感染症や食中毒予防に努める。</p>		<p>(評定)</p>	
		<p>①-2 中・高校連携を密にして保健委員会の充実を図る。がん教育を継続して行い，生徒に理解を深めてもらう。2回実施し，1回は外部講師を招く。</p>		<p>(所見)</p>	
		<p>①-3 新型コロナウイルス感染症対策の強化を図り，毎日生徒に声かけをし，感染者を出さないようにする。</p>			
		<p>①-4 夏季休業中の健康力アップ作戦を利用して良い食習慣や</p>			

	生活習慣の確立を図る。	
②環境問題・防災への意識高揚と校内環境美化に努める。	①-5 外部講師を招いて（食生活が健康増進に大切との内容の）講習会を1回実施する。熱中症予防について球技大会・体育祭を通して啓発活動する。	
	②-1 避難訓練を各学期1回以上実施する。	
	②-2 アンケートで「校内美化活動に積極的に取り組んでいる」の割合が80%以上とする。	
③安全教育を徹底して事故防止に努める。	②-3 電気・水道使用量を昨年度より5%削減させることをめざす。	
	③ 交通事故防止に努め重大事故発生数は年間0件をめざす。	
	活動計画	活動計画の実施状況
	①-1 「ほけんだより」を発行し、感染症や食中毒への予防意識を高めるなど、健康教育を推進する。	
	①-2 保健委員がこまめに手洗い用石けんやアルコール消毒液の補充に努める。保健委員会が中心となり富東祭での保健展を充実させる。	
	①-3 新型コロナウイルス感染症の予防の徹底を図り感染者を出さないようにする。	
	①-4 生活習慣病予防についての課題やテーマに統一させて健康力アップ作戦を実施する。	
	①-5 体育祭や球技大会を利用して、熱中症予防や食事と健康について専門家に講演を依頼する。	
	②-1 地震や津波に対する備えや対策について学び、自助と共助の精神を養う。生徒防災委員長がアピール放送を行い、	

		<p>防災意識を高める訓練を行う。</p> <p>②-2 毎日の清掃活動を「5分前」に取りかかる姿勢を身につけ、校内の環境美化に取り組む。ゴミ削減のため、モノを大切に使う精神や分別作業を徹底するため啓発活動を積極的に行う。</p> <p>②-3 電気・水道使用量を広報し、節電・節水を呼びかける。</p> <p>④ 交通マナー、事故防止について集会やHRで指導を行う。</p>			
<p>[7] 家庭・地域社会との連携による「社会に開かれた教育課程」の推進</p>	<p>①年間計画・学校行事等の情報をホームページで発信する等、積極的な情報発信を行う。</p> <p>②家庭・地域社会と連携・協働しながら、生徒の能力を伸長する教育課程の実施に努める。</p> <p>③学校評価や学校評議員制度を活用して、教育方法や学校運営の改善を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 ホームページのアクセス数が年間15万件以上になるようにする。</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p>	
		<p>①-2 ホームページの更新回数は、年間300回になるようにする。</p>		<p>(所見)</p>	
		<p>②-1 PTA総会の保護者参加率50%以上、文化祭一般公開日の来校者数1,000名をめざす。</p>			
		<p>②-2 各学年の「保護者対象進路説明会」保護者参加率60%以上をめざす。</p>			
		<p>②-3 地域との合同避難訓練を実施する場合は、その参加者数を30名以上にする。</p>			
		<p>③ 学校評議員委員会を年間1回以上開催し、意見を伺う。</p>			
		<p>活動計画</p> <p>①-1 適宜、必要な情報発信を行う。生徒や保護者には、定期的にHPを閲覧するよう呼びかける。</p> <p>①-2 学校行事や部活動実施後に更新する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		

		<p>②-1 P T A 役員会や P T A 総会で、保護者や地域の方からの要望があれば申し出て欲しい旨をお願いし、時に、適切な教育支援を受けながら、生徒・地域社会・学校が一体となつて、適切な教育課程の作成を含む充実した教育活動が実践できるよう努める。</p> <p>②-2 進路に関する情報提供を積極的に行う。</p> <p>②-3 自主防災組織との合同訓練を行うことで、地域との連携を図り、共助の精神を養う。</p> <p>③ 学校評価アンケート結果を2学期末に実施し、その結果をもとに3学期に学校評議委員会を開催する。</p>			
[8] 伝統を受け継ぐ さわやかな校風の樹立	<p>① 文武両道を遂行し、礼儀正しく「さわやかで活力あふれる富東」の精神を高める。</p> <p>② 部活動を通じて、強固な意志を持つてたくましく生きる精神力と心豊かな人間性を育成する。</p> <p>③ 地域社会の期待に応えとともに清潔な環境の中で、心のふれあう校風を樹立する。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 学校評価アンケートで「友だちや先生方にきちんとあいさつができています」について「おおよそ当てはまる」以上を90%以上とする。</p> <p>② 部活動に入部していない生徒を5%以下にする。大会が開催されれば四国大会以上の大会への出場部数を10部以上にする。</p> <p>③ 学校周辺や避難経路の清掃を各クラスで年2回以上実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>(所見)</p>	
[9] 教職員の資質向上	<p>① 教職員が自発的・積極的に校内外の研修に参加し、自己研鑽に励むこと</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 相互授業参観を年2回以上、研究授業及び授業研究会を年1回以上実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p>	

によって、生徒が意欲的に取り組む授業を創造するとともに、授業と家庭学習、定期考査と課題テスト等を効果的に関連させることによって、確かな学力を育成する。

①-2 教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」、「授業に様々な工夫をしている」に対して「おおよそ当てはまる」と答えた生徒がそれぞれ80%以上とする。

①-3 外部講師による職員研修会を年間3回以上実施する。

①-4 校外における研修（指導力向上研修等）にのべ50名以上参加する。

活動計画

活動計画の実施状況

①-1 授業研究や相互参観授業を効果的に実施し、授業力向上に活かす。

①-2 教材研究にあてる時間を確保し、アクティブラーニングやICTの活用を積極的に取り入れる。

①-3 教育相談、学力向上、GIGAスクール等に関する研修会を実施する。

①-4 校外研修やオンライン研修等を教職員に広報し、研修を勧める。

(所見)